

栄養学科の今とこれから

材の育成に力を入れて
います。近年、人工
知能？(AI)やデ
ジタル技術の進歩に
より、栄養管理や健
康情報の提供はます
ます高度化し、個々
の状態に応じた食事
提案も可能になっ
てきました。しかしそ
の一方で、実際の健
康づくりの現場で
は、人と人との関わ
りや信頼関係がこれ
まで以上に重要であ
ることも見直されて
います。

名寄市立大学保健
福祉学部栄養学科で
は、「食」を通して地
域の健康を支える人
材の育成に力を入
れています。近年、人工
知能？(AI)やデ
ジタル技術の進歩に
より、栄養管理や健
康情報の提供はます
ます高度化し、個々
の状態に応じた食事
提案も可能になっ
てきました。しかしそ
の一方で、実際の健
康づくりの現場で
は、人と人との関わ
りや信頼関係がこれ
まで以上に重要であ
ることも見直されて
います。

本学科では、こう

した時代の変化を踏
まえ、専門的な知識
や技術に加えて、相
手に寄り添い、分か
りやすく伝える力
や、信頼関係を築く
力の育成を重視して
います。授業では講
義だけでなく、実習
や地域での活動を通
じて、実際に人と関
わる経験を大切にし
ています。

学生たちは、市内
の医療機関や福祉施
設、行政と連携しな
がら、栄養指導や食
事支援に携わり、一

人ひとりの生活や思
いに寄り添うことの
大切さを学んでいま
す。

また、地元の食材
を活かしたレシピ開
発や健康教室の開
催、子どもたちへの
食育活動などを通じ
て、市民の皆さんと
直接交流する機会も
多くあります。こう
した取り組みの中
で、単に正しい知識
を伝えるだけでなく、
相手の立場や背
景を理解しながら関
係を築いていくこと

の重要性を実感して
います。

研究面において
も、生活習慣病の予
防や高齢者の低栄養
対策などの応用的研
究や食品の機能性、
食と免疫に関するこ
と、食物繊維と腸内
細菌の関係など、地
域に密着したテーマ
から基礎的な研究ま
で幅広く取り組んで
います。

さらに本学では、
これらの教育・研究
を一層発展させるた
め、将来的な大学院
設置も視野に入れた
体制整備を進めるこ
とで、より高度な専
門性と研究力を備え



て地域の多様な健康
課題に答えられる人
材の育成を目指して
います。

これからの栄養専
門職には、データや

技術を活
かす力と
ともに、
人に寄り
添う力の
両方が求
められま
す。栄養
学科は、
地域との
つながり
を大切に
しながら
心をつな
ぐ栄養の
実践を担う人材を育
て、これからの社会
に貢献していきま
す。

栄養学科科長
山本達朗